

一 日本医師会生涯教育講座 小児科領域講習 (iii 1 単位) 一

札幌市小児科医会研究会のお知らせ

札幌市小児科医会

【学術部 30. 8. 16】

拝啓 諸先生には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。

さて、9月研究会は下記のとおり開催することとなりましたので、ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

受付時お渡しする受付券と引き換えに、講演終了後、専門医講習受講票が交付されます。途中退席時（短時間を除く）には交付不可。受付券配布は講演開始10分後まで、時間厳守願います。

敬具

記

日時：平成30年9月22日（土曜日） 午後4時30分－6時00分

場所：札幌市医師会館 5階東ホール（中央区大通西19丁目 TEL611-4181）

座長：KKR札幌医療センター

小児科・アレルギーリウマチセンター

センター長

小林 一郎 先生

演題：「妊娠・授乳中の投薬」

演者：国立成育医療研究センター

周産期・母性診療センター 主任副センター長

妊娠と薬情報センター

センター長

村島 温子 先生

演者紹介；

1982年筑波大学医学専門学群卒業。卒業後虎の門病院に内科研修後、原因不明で若い女性が侵される膠原病患者のためになりたいと順天堂大学膠原病内科に入局（1997年～講師）。「膠原病と妊娠」をテーマにしていたことがきっかけで当センター母性内科の開設準備にあたり、2002年医長として赴任。2005年に厚労省事業である妊娠と薬情報センターを開設し、2007年からセンター長を兼任。2010年から母性医療診療部長。2013年から現職。膠原病合併妊娠に関連した厚労省科研費研究代表者、妊娠と薬に関連した日本医療研究開発機構研究費（AMED）研究開発代表者を務め、診療ガイドラインの作成を含めた研究成果を出してきた。また、妊娠・授乳中の薬剤使用に関する専門家として厚労省薬事・食品審議会委員を複数務めている。日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医。リウマチ学会理事、日本母性内科学会理事長、日本高血圧学会理事。著書に「膠原病とリウマチの治し方」「薬物治療コンサルテーション・妊娠と授乳」「アラフォー安産」などがある。

大学時代は馬術部に所属していましたので、3人の子育てが一段落したら再開したいと思っていましたが、仕事に忙殺されて、気がついたら乗馬など危なくてできない歳になっていました。一昨年、札幌競馬場で初めて馬券を購入、ビギナーズラックでしたが、病みつきにならず今に至っています。

当然のことではあります、医師が薬物治療を行うかどうかは、そのメリット（効果）とリスク（副作用）のバランスをみて判断します。妊婦・授乳婦に対しても「リスクを考慮しても薬剤を投与することにより得られる効果が病態の改善にとって必要である」と判断したときにのみ処方するという点では同じはず。妊婦・授乳婦が特殊としたら、母親へ薬剤投与を行うことにより薬剤を必要としない胎児・乳児にも薬剤が投与されるので、より慎重な対応が求められるということでしょう。一方で、母体環境は胎児の成長・発達に重要なのは当然のことであり、母体環境を向上させるために必要な薬剤を使用することは胎児・乳児にとってもメリットを享受することになるという見方も大切です。

添付文書の「妊婦・授乳婦の項」は、ほとんどの薬剤が動物実験結果を参考に書かれていますが、動物実験結果をヒトに適用することには限界があり、ヒトで使った場合に安全かどうかはヒトでの使用経験から判断するのが適切です。しかし、日本では疫学研究成果が添付文書に反映されにくいという現状があります。このような中、妊娠と薬情報センターが中心となって行った国内外の疫学研究などの評価結果に基づいて、本年7月に免疫抑制剤3剤の禁忌が外されたことは画期的なことと思います。FDA分類はこれまで添付文書以外の参考資料として重宝されてきましたが2015年に廃止されましたので、今後は産婦人科診療ガイドライン産科編が臨床現場の拠り所になっていくと考えています。

成育医療の現場で母性内科医として仕事をするようになって10数年がたちました。私は元々リウマチ学を専門としていましたので、小児期発症のトランジション症例から40歳前後で発症した女性まで、リウマチ性疾患の妊娠に関わってきました。その中で必要と思われた抗SS-A抗体陽性女性の妊娠や抗リン脂質抗体陽性女性の妊娠について整理したいとの思いから厚労科研で診療指針を作成してきました。また最近完成した厚労科研班で作成した「SLE、RA、JIA、IBD患者の妊娠、出産を考えた治療指針」にも大きくかかわりました。しかし、指針やガイドラインはあくまでも目安であって、「妊娠に挑戦するかどうかは患者自身ないしは家族が決めること。医師はその判断のための情報提供と、ちょっとしたアドバイスをするだけでよい」というのが私の考えです。

今回は、妊娠と薬情報センターの立場から妊娠・授乳中の薬の使い方を中心にお話しさせていただきますが、リウマチ学を専門とする母性内科医の立場からリウマチ性疾患の妊娠についても少し触れさせていただこうと思います。

※本研究会は、日本医師会生涯教育講座1.5単位として開催。CC：7（医療の質と安全）

## 次回の予定

日 時：平成30年10月13日（土）16:20開始 場 所：ニューオータニイン札幌

演 題-I：「ロタウイルスワクチンの重要性と導入のインパクト」

演 者：博慈会記念総合病院 小児科 副院長 田島 剛 先生

演 題-II：「必ず知っておきたいHPV感染症と予防ワクチンの最新知識」

演 者：金沢医科大学 産科婦人科 教授 笹川 寿之 先生